

第35回 うつのみやこども賞だより

平成30年度 9回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『ぼくらの一歩』

いとうみく／著 (アリス館)

～読んだ本の感想よ～



- 皆でぶつかりあったり、時にはなくさめ合ったりと、段々成長する姿が見られた。試行錯誤をくり返しながら練習している姿も良かったし、大会で2位になってしまったのは惜しかったけれど、新記録を出せたので感動した。
- 30人31脚という、むずかしい競技に立ち向かっていく6-1にとっても感動しました。
- 非の打ち所がほぼ無い本だと思った。短所が無いので、とても良い本だと感じた。
- みんなそれぞれのなやみをかかえていたけど、友達とのりこえて、クラスみんなと目標に向かってがんばっていて、感動しました。
- クラス全29人、萌花を入れて30人で、1つの目標を追いかける。これじたいはよくあるけど、30人31脚はみたことがなかったので、しんせんでした。

『稲妻で時をこえろ!』 小森香折／著 (文研出版)

- 稲妻が起こるとタイムスリップするという話で、ファンタジー系だなあと思いました
- しゅんがめぐる過去と未来の大ぼうけんにドキドキワクワクした。
- “稲妻で時をこえる”という、これまでになかったざんしんな現実から他の世界へ、他の世界から現実へもどる方法がおもしろかったです。
- 美月が本の世界に帰れるのかドキドキしました。「時間」という物について考えさせられる本でした。
- 最後はタイムスリップして、もどれてよかったです。

『凸凹あいうえおの手紙』 別司芳子／著 (くもん出版)

- 私も点字はみたことがあるし、実際に視覚障がい者の方のお話も聞いたことがあるけれど、本に点字がのっているなんてすごいなと思いました。
- 点字という身近であり、遠いそんざいにしょう点をあてていて良いと思いました。
- 大地は、今までなかなか佐山さんに交流会の手紙を渡すことができなかったけど、点字というものをがんばって覚えて手紙で伝えることができて、私まで安心した。
- 佐山のために点字を覚える努力はすごいと思った。

『流星と稲妻』 落合由佳／著 (講談社)

- 例えば「流星」と「稲妻」というタイプの違う二人が工夫しながら、相手の良いところを学びながら進んでいく姿に勇気をもらえました。
- 弱くて、ビビリだった宝がだんだん強くなって、勇気をもてるようになって良かった。
- 善太と宝のコンビはサイコーだと思います。
- 宝とぜん太の友情がとてもリアルにえがかれていて、ページをめくる手がとまらなかった。
- 最後に善太が宝に「面」をくらわせるところがおもしろかったです。